

# “衣料廃棄物問題を考える”

サークル名	ほんそうサークル
部署	総務部 総務課

## 1. サークル紹介

構成人員	5名	テーマ歴	32件目	活動期間	R4/4~R5/2 (11ヶ月)
------	----	------	------	------	---------------------

## 2. テーマ選定

### (1) テーマの候補

◎=3点、○=2点、△=1点、×=0点

問題・課題	評価項目	改善の要求度			サークルの実力				評価点計	順位
		重要度	緊急度	経済度	全員参加	活動期間	自力解決	上司方針		
1. 衣料廃棄物問題を考える		◎	○	◎	◎	◎	◎	△	18	1

### (2) 取り組む必要性の明確化とテーマ選定の決定

地球環境保全へ向けた積極的な取り組みが求められている現代。近年、特に問題となっているのが“衣料廃棄”です。廃棄といえば賞味期限切れの食べ物や食べ残しなどの「食品廃棄」がイメージされやすいですが、実は衣料廃棄の問題も年々深刻化しています。日本の衣料廃棄物は年間140万トンにも上ると言われており、一般廃棄物に分類される家庭ごみから出される衣類(75.1万トン)のうち、リサイクルやリユースされる割合は約34%で、66%は焼却・埋め立て処分をされているのが現状です。

そのような背景の中、まずは私たち一人一人の主体的な行動を意識して、衣料廃棄物問題に取り組むことは出来ないだろうかと考えました。SDGsの取り組みからも、目標12「つくる責任・つかう責任」におけるターゲット12.5で、「2030年までに廃棄物の発生防止、削減、再生利用および再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」と掲げており、私たち個人にできること、取り組んでいくことが求められています。総務課としてサステナブルな社会の実現のために、まずは身近な問題に焦点をあて、SDGsへの積極的な協力姿勢を発信できるのではないだろうか。その思いでテーマ名を「衣料廃棄物問題を考える」とし、ほんそうサークルで取り組むことにしました。



## 3. 活動計画

ステップ	担当	計画											
		実施											
		R4										R5	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
テーマの選定	全員	→											
課題の明確化	//		→										
目標設定	//			→									
方策の立案	//				→								
最適策の実施	//						→						
効果の確認	//								→				
標準化	//									→			
まとめ・反省	るみ										→		

## 4. 課題の明確化

### (1) 衣料廃棄物問題に関する意識調査

「衣料品の再利用」をテーマに、リサイクル活動についての実態把握、また不要になった衣料品の再利用への意識について、10項目に分類した意識調査(全23問)を役員に行いました。

調査項目	問数
①リサイクル活動への関心	1問
②衣料品購入状況の動機	2問
③衣料品購入時の意識	2問
④衣料品を長期愛用するための意識	2問
⑤ユーズド品（中古衣料）に対する関心	3問
⑥衣料品の保管状況	1問
⑦不要になった衣料品の処分方法	2問
⑧リユース・リサイクルが可能な衣料品の有無の確認	3問
⑨国・企業の取り組みの関心	6問
⑩衣料廃棄物問題への関心	1問

- ①調査日：2022年10月14日～20日
- ②調査対象：本社52名。回答者の年齢は23～64歳
- ③調査方法：メールによる質問形式で（全23問）。統計処理により個人特定はされないこと、また本活動のみでの利用に使用することを対象者に明示。
- ④回収率：96%
- ⑤解析方法：回答データを集計し、統計解析を行った。
- ⑥構成：質問は、基本的属性（年齢・性別）、衣服の購買行動に関する質問群（動機や意識他）、そして衣料品の廃棄と再利用に関する質問群（保管状況、処分方法他）により構成。また、調査において古着の定義は「下着・肌着・靴下・靴・帽子などの装飾品を除く繊維製品において使用済みのもの」とした。

### 【意識調査の結果】

ここからは、結果報告書より主要結果のみを一部抜粋して記述します。

#### 調査項目③：衣料品購入時の意識

調査対象50名のうち、環境に配慮した衣料品の条件の購入Q4に際しては、「意識する」、「やや意識する」といった積極購入派がわずか8%で、「どちらともいえない」という中間的な意見ですら18%に過ぎず、「あまり意識しない」、「意識しない」といった無関心派が74%と7割を超えることがわかりました。

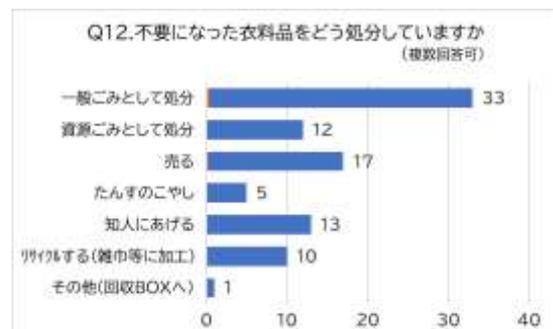
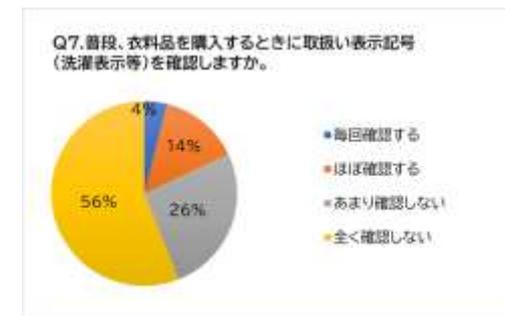
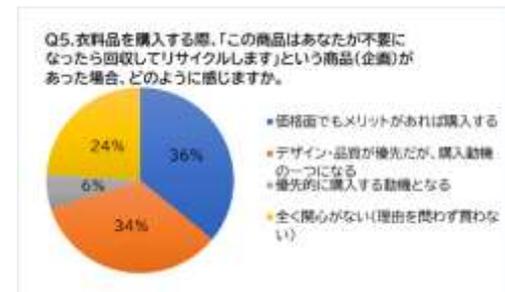
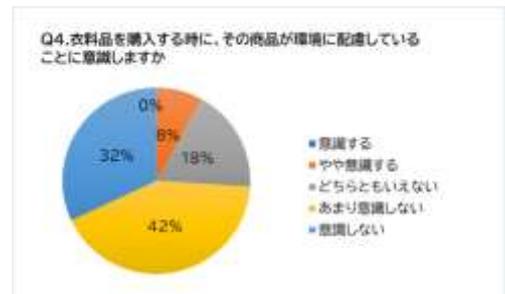
これは次のQ5で掲げた「明確なりサイクル表示」への反応をみても同様の傾向が伺えます。すなわち「優先的に購入する動機となる」という積極派は6%にすぎず、「価格面でもメリットがあれば購入する（36%）」や「デザイン・品質が優先だが、購入動機の一つになる（34%）」などが圧倒的に多いことから、環境配慮に対する優先順位の低さは明らかです。一方で「全く関心がない（24%）」も2割を超え、衣料品の購買行動において環境意識の動機付けは殆ど働いていないことがわかりました。

#### 調査項目④衣料品を長期愛用するための意識

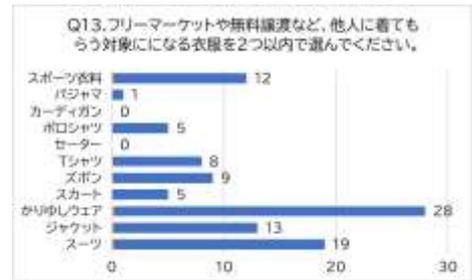
繊維製品の洗濯表示（取り扱い表示）について「購入する際には洗濯表示を「毎回確認する」、「ほぼ確認する」が18%に留まり、男女別でみると、ほぼ女性であることがわかりました。

#### 調査項目⑦不要になった衣料品の処分方法

また、Q12から廃棄においては「一般ごみ（36%）資源ごみ（13%）」と半数近くの人が不要になった衣料品をゴミとして処分しています。また販売においては、「売る（19%）」また「知人にあげる（14%）」「加工においてはリサイクル（雑巾等に加工）」が11%となっており、2次活用されている後者3つを併せると、約半数は効率的な衣料品リサイクルシステムが存在していることを示しています。

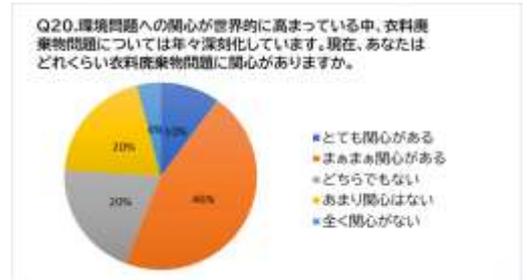


次に「フリーマーケットや無料譲渡など、他人に着てもらおう対象になる衣服を2つ選んでください」Q13との回答に「かりゆしウェア（28%）」がもっとも高く、「スーツ（19%）」、「ジャケット（13%）」がそれに次ぎました。クールビズ期間での着用が定着したかりゆしウェアは着る期間も長く、中古衣料としての受け入れも可能であることがわかりました。



### 【意識調査：まとめ】

意識調査の結果、役職員全体の約半数以上は、効率的なリサイクル活動を日常で行っていることがわかりました。同時に衣料廃棄物問題にも**24%の無関心派**がいることも見えてきました。また、環境意識の高い群は低い群と比較して、不用となった衣料品を有効に利用する傾向がみられ、そのことから不要となった衣料品のリサイクルを向上させるためにも**環境問題への関心を高めることが重要**であると考えました。



### (2) 社内倉庫にある不要衣料品の調査

倉庫には保管されている布製品（布団やシートカバー、カーテン他）があります。種類は布団類と不使用のカーテン（24kg）、使用済みのシートカバー（13kg）です。現在は使用する予定もなく、数十年も前から放置されている状態の物でした。

### (3) ウエスの利用状況について

意識調査の結果から、不要になった衣料品の処分方法の一つに「リサイクルをする（雑巾に加工）」という回答が10件ありました。推進委員より、屋部工場では機械類の油を拭き取ったり、汚れ・不純物などを拭き取るためにウエスを購入し使用しているという情報を聞き、工場での4月～7月までの利用状況を調べてみました。

（「ウエス」とは、要らなくなった布をカットしたものを意味する言葉で、使い捨てできる雑巾のこと。）

	重さ (kg)	金額 (円)
4月	██████	██████
5月	██████	██████
6月	██████	██████
計	██████	██████
平均	██████	██████

### 【わかったこと】

ウエスは平均で●●●kg/月ほど購入（●●●円/kg）しており、約●●●円/月でした。購入先は県内だが、県外の業者から仕入れているとの事でした。

## 5. 攻め所の明確化

テーマを衣料廃棄物問題に関する無関心派層を減らすため「環境問題への意識を高める」とし、「人」「環境」「物」の4つの項目に分けて攻め所の検討を行いました。

把握の項目	要望レベル	現状レベル	ギャップ	攻め所候補
テーマの特性	衣料廃棄物問題の無関心派層を10%以下にしたい。	無関心派層が24%（12人）	無関心派層14%（7人）	-
人	衣料品を購入する前に常に「本当に必要か」「長く大切に着るか」を考える。	安ければ買う、欲しければ手に入れる。どれだけ必要か考えていない。	衣料廃棄物問題の現状を意識していない。	衣料廃棄物問題が引き起こす環境問題の実態を知る・学ぶ。
	衣服を長持ちさせる努力、また環境に配慮した繊維の選択ができるようになる。	取り扱い表示、洗濯表示を意識せず購入している。	取り扱い表示、洗濯表示に対する意識がない。	衣服を長持ちさせるための洗濯方法、また繊維について学ぶ。
	使用しなくなった衣料品の処分について資源循環を意識して行うことができる。	衣料品の資源循環を環境活動だとは意識していない。	衣料品を最後まで大切に活かしてない。	使用しなくなった衣料品を最後まで利用するために処分方法を考える。
環境	総務課で可能な、資源循環ができる環境を整えたい。	SDGsの考え方で、総務課として出来ることを意識してない。	今までに取り組んだことがない。	総務課として3R活動推進のため、SDGsに繋がる環境を整える。
物	無駄なものは買わない、ごみを出さない、買った物は長く使うようにしたい。	社内倉庫に数十年間から使用していない布製品が大量にある。	リユース、リサイクルする努力をしていない。	資源や環境と衣料品のつながりに関心をもち、ゴミとして捨てるのではなく処分方法を考える
	不要なものを、もう一度資源に戻して新しいものを作る原料にする。	放置している、またはゴミに出している。	リサイクルにまわす努力をしていない。	不要なものを、もう一度資源に戻して新しいものを作る原料にできないか検討する。

## 6. 目標設定

資源循環が出来る環境づくりを検討し、各個人の意識向上を以下のように目指すことにしました。

何を	衣料廃棄物問題に関する無関心派層を
いつまでに	2022年12月29日までに
どうする	現状レベル24%から10%以下に減らす (12人→5人以下)



## 7. 方策の立案と最適策の追求

攻め所候補から具体的な方策を出し、以下の通り評価した結果13項目を採用することにしました。

攻め所候補	具体的な方策	評価点：◎3点 ○2点 △1点			評価項目			採用可否
		上司方針	サークルの強み	部門間の協力	総合評価			
衣料廃棄物問題が引き起こす環境問題の実態を知る・学ぶ	メンバー全員で関連する講習会に参加する	△	◎	△	5			
	関連する専門図書を活用し、情報を共有する	△	△	△	3			
	無料オンラインセミナーを受講する	△	○	△	4			
	SNSによる環境問題の情報収集を行い、役職員へデータを配信する	◎	◎	◎	9	可	①	
衣服を長持ちさせるための洗濯方法、また繊維について学ぶ	取り扱い表示、新・洗濯表示について講習会を受講する	△	△	○	4			
	取り扱い表示、洗濯表示等の情報収集を行い、データを配信する	◎	◎	◎	9	可	②	
	素材となる繊維の種類(天然/化学)について学び共有する	◎	◎	◎	9	可	③	
使用しなくなった衣料品を最後まで利用するために処分方法を検討する	使用していない「かりゆしウェア」をリユースする	◎	◎	◎	9	可	④	
	中古衣料を施設・団体へ寄贈する	△	△	△	3			
	不要になったタオル・シーツをリサイクルにまわす	◎	◎	◎	9	可	⑤	
総務課として3R活動推進のためSDGsに繋がる環境を整える	使用していない「かりゆしウェア」を回収し社内で無料譲渡できる場を設ける	◎	◎	◎	9	可	⑥	
	不要になったタオル・シーツを回収し、ウエスハリサイクルし工務課へ提供する	◎	◎	◎	9	可	⑦	
	「環境」と「福祉」の視点で、障害者と関われるよう検討する	◎	◎	◎	9	可	⑧	
	3R活動を浸透させる呼びかけ運動を行う	△	△	△	3			
	3R活動のポスターを作成し掲示する	○	◎	◎	8	可	⑨	
資源や環境と服のつながりに関心をもち、リサイクル方法を考える	SDGs目標12の具体的な目標を再度確認し、役職員へデータを配信する	◎	◎	◎	9	可	⑩	
	衣料品以外にも中古品の無料譲渡が社内で行える事が出来る環境を検討する	◎	◎	○	8	可	⑪	
	社内倉庫にある衣料品(シートカバー他)をウエスハリサイクルする	◎	◎	◎	9	可	⑫	
もう一度資源に戻して新しいものを作る原料にできないか検討する	使用していないスーツの回収を行い、依頼のある企業へ提供する	◎	◎	◎	9	可	⑬	
	回収した衣料品でアップサイクルが可能か検討する	△	△	△	3			
	不要となった衣料品の未活用生地を必要とする場がないか検討する	△	△	△	3			

## 8. 最適策の実施

採用した13項目「①～⑬」の最適策について実施しました。

攻め所	最適策(実施内容)	実施日
衣料廃棄物問題が引き起こす環境問題の実態を知る・学ぶ	① SNSによる環境問題の情報収集を行い、役職員へデータを配信する	11-12月
	記事配信1.ゼロから学ぶファッションと社会問題	11/30
	記事配信1.ファストファッションが引き起こす廃棄物問題とは	11/30
	記事配信2.衣料品廃棄の現状からひも解く！洋服の買い方と手放し方	12/8
環境に配慮した素材の選択ができる。	記事配信2.大量の水の使用、そして85%はゴミに・・・ファッション業界は環境へ大きな影響を与えている	12/8
	② 取り扱い表示、洗濯表示等の情報収集を行い、データを配信する	12月
	記事配信3.表示ラベルの見方	12/15
	記事配信3.新・選択マーク一覧「洗濯表示31種類まとめ」新しい取扱い絵表示(日本)	12/15
	記事配信3.ポリウレタン素材の弱点を知る	12/15
記事配信4.再生繊維は本当に環境に優しいのか。	12/23	
◆【把握度テスト】ほんそうサークルのみ実施		
サークルメンバー全員正解(全10問)		12/21

No.	問題	選択肢
①	家で洗濯できるのはどちら?	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
②	手洗いができるのはどちら?	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③	洗い方で違ってくるのはどちら?	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>

	<p>③素材となる繊維の種類（天然繊維/化学繊維）について学び共有する</p> <p>天然繊維と化学繊維に分けて衣料用繊維の種類をまとめ（生分解性の可否を理解）共有する。</p>	12月 12/23																
使用しなくなった衣料品を最後まで利用するためにリユース、リサイクルを検討する	<p>④使用していない「かりゆしウェア」をリユースする</p> <p>⑤不要になったタオル・シーツをリサイクルにまわす</p> <p>⑥使用していない「かりゆしウェア」を回収し社内で無料譲渡できる場を設ける</p> <p>・依頼期間：令和4年12月1日～9日</p> <p>・場 所：総務部総務課 回収BOX</p> <p>・回収内容：不要となった「かりゆしウェア」、「タオル、シーツ等」</p> <p>・回収結果：かりゆしウェア22枚 タオル・シーツ他95枚（約12kg）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>枚数</th> <th>重さ(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>シーツ等</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>大タオル</td> <td>17</td> <td rowspan="3">11</td> </tr> <tr> <td>中タオル</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>小タオル</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>・譲渡実施日：令和4年12月23日</p> <p>・譲渡枚数：7枚（残15枚←引き続き総務課で無料譲渡を行う）</p> 	内 容	枚数	重さ(kg)	シーツ等	4	1	大タオル	17	11	中タオル	60	小タオル	14	計		12	11-12月 11/22 12/21
	内 容	枚数	重さ(kg)															
シーツ等	4	1																
大タオル	17	11																
中タオル	60																	
小タオル	14																	
計		12																
資源や環境と服のつながりに関心をもち、リサイクル方法を考える	<p>⑦不要になったタオル・シーツを回収し、ウエスへリサイクルし、工務課へ提供する</p> <p>⑧「環境」と「福祉」の視点で、障害者と関われるよう検討する</p> <p>⑫倉庫にある衣料品（旧車両の使用済みシートカバー他）をウエスへリサイクルする</p> <p>倉庫にある衣料品は使用済みシートカバー（綿）のみ、ウエスとして使用できる（13kg）ため、役職員から回収したタオル等と合わせ（計25kg）リサイクルを行う。その際、理想の大きさへのカットや、不要部分のカットを行う作業が必要となるため、B型就労支援施設へ作業を依頼した。手頃な大きさに裁断してもらい、またシーツやシートカバーにはチャック等があるため、ウエスに不要な部分の裁断作業を工賃を払い、行ってもらった。</p> <p>【工賃の明細】裁断料@●●×●●kg+紹介手数料●●円=●●円（@●●円/kg）</p> <p>その後は、リサイクルされたタオル等を工務課へ納品（24kg）し、使用してもらった。</p>	11-12月 11/22 12/23																
総務課として3R活動推進のため、SDGsに繋がる環境を整える	<p>⑨3R活動のポスターを作成し掲示する、ノーツ、掲示板にアップする。</p> <p>日常生活におけるコマメな環境配慮行動の実践を呼びかけた。</p> <p><b>3Rとは</b></p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td><b>Reduce</b></td> <td>・物を大切に使う ・ごみを減らそう</td> </tr> <tr> <td><b>Reuse</b></td> <td>・繰り返し使う</td> </tr> <tr> <td><b>Recycle</b></td> <td>・再び資源として利用しよう</td> </tr> </tbody> </table> 	<b>Reduce</b>	・物を大切に使う ・ごみを減らそう	<b>Reuse</b>	・繰り返し使う	<b>Recycle</b>	・再び資源として利用しよう	1月 1/27										
	<b>Reduce</b>	・物を大切に使う ・ごみを減らそう																
<b>Reuse</b>	・繰り返し使う																	
<b>Recycle</b>	・再び資源として利用しよう																	
⑩SDGs目標12の具体的な目標を再度確認し、役職員へデータを配信する	<p>記事配信5. つくる責任 つかう責任 を解説   世界と日本の課題とは</p>	12月 12/28																
	<p>⑪衣料品以外にも中古品の無料譲渡が社内でできる事が出来る環境を検討する</p> <p>会社の携帯のLINEを利用し、「おもたいクン」を開設</p> <p>衣料品に限らず、各家庭にある不用品を欲しい人へ譲ることでリサイクルを目指すことを目的とし、個人間で物品提供が行えるツールを設ける。そのため利用方法、ルール作り等の環境整備を行う。</p> <p>【あげたい人からもらいたい人へバトンタッチ】</p> 	2月 検討中 (3/14より実施予定)																
	<p>⑬使用していないスーツの回収を行い、依頼のある企業へ提供する</p> <p>2021年より始まった、沖縄銀行さん主催の「就職活動応援プロジェクト」でリクルートスーツの提供依頼があり、今年も依頼があることを想定して、提供を行う。</p> 	予定																

## 9. 効果の確認

### (1) 有形効果

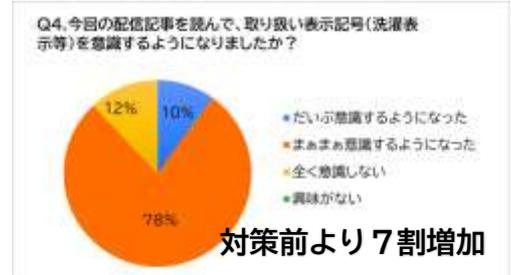
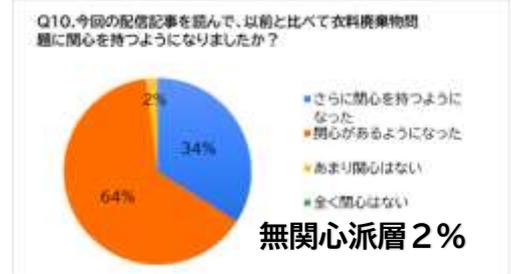
対策実施後、役職員へ意識調査を「課題の明確化」と同様に行いました。衣料廃棄物問題への無関心派層を10%以下にするという目標に対し、対策後は2%という好結果を出すことが出来ました（157%達成）。

環境に配慮した商品を選ぶ、これまで興味のなかった洗濯マークに関心を持つ、衣料品を最後まで大切に活かす努力をするといった日々のちょっとした心がけが、各個人の日常生活を変えるきっかけとなります。「資源」や「環境」と「衣料品」のつながりに関心をもつことで、衣料廃棄物問題を考えることに繋がった結果となりました。

### (2) 無形効果

総務課として、かりゆしウェアの譲渡会、不要な衣料品のリサイクル、そして「あもたいクン」の開設という資源循環を可能とする環境を作ることで、SDGs への積極的な協力姿勢を発信することが出来ました。そして、「環境」と「福祉」の視点で、福祉事業所を巻き込んだ取り組みをすることができ、SDGs 8「働きがいも経済成長も」にも同時に取り組むことが出来ました。

活動期間中は、活発な意見交換ができ、部内のコミュニケーションを図る場となりました。



## 10. 標準化と管理の定着

なぜ(目的)	いつ	誰が	何を	どのように
3R活動推進のため	定期的に	総務課全員	SDGsに繋がる環境作りを	リユース、リサイクル出来るよう検討する
使用していないかりゆしウェアをリユースするために	衣替え時期に	担当者	不要となったかりゆしウェア	社内で無料譲渡を呼びかける
あもたいクンが積極的に活用されるように	定期的に	担当者	あもたいクンのルールを	見直す必要があれば、検討を行う

### 1.1. 私たちが取り組んでいくこと

なぜ(目的)	いつ	誰が	何を	どのように
地球規模の環境問題が広がる中で私たちにできることを考えるために	購入する前	各個人	衣料品を	安易に買わないこと。本当に必要なか、よく考える
	購入した後	各個人	衣料品を	洗濯等にも注意して大切に長く使うよう努力する
	使用しなくなった時	各個人	衣料品の処分方法を	ゴミとして捨てる前にリユース、リサイクルする方法を考えるようにする

### 1.2. まとめと反省

今回の活動では「衣料廃棄物問題を考える」という身近な問題をテーマに取り組みました。業日常生活の中でもメンバー全員に関わるものであったため、会合の都度多くの意見も出され、有意義な活動となりました。

環境問題は複雑です。ゴミ問題は人類共通の課題なので、1人1人が意識を変えていかなければ解決できません。今回の活動を機に、総務課としても環境負荷を軽減する行動を意識し、できることからSDGsへの取り組みに関わっていくことで、さらに環境保全の推進に取り組んでいきたいと思えます。